

## 教育・保育の「量の見込み」について

資料 1 - 1

### 1 現行計画の「量の見込み」

	H26 (実績)			H31 (当初計画)			H31 (実績)			児童数に占める割合		
	児童数	申込者数	児童数に占める割合	推計児童数	量の見込み	児童数に占める割合	推計児童数	申込者数	児童数に占める割合	H31(計画) -H26(実績)	H31(実績) -H26(実績)	H31(実績) -H31(計画)
3号認定(0歳児)	7,538	791	10.5%	6,859	2,166	31.6%	6,470	1,223	18.9%	21.1%	8.4%	-12.7%
3号認定(1・2歳)	15,774	4,758	30.2%	14,206	5,935	41.8%	14,014	6,457	46.1%	11.6%	15.9%	4.3%
2号認定	24,710	8,039	32.5%	23,003	8,576	37.3%	22,703	9,821	43.3%	4.7%	10.7%	6.0%
保育利用計(全市)	48,022	13,588	28.3%	44,068	16,677	37.8%	43,187	17,501	40.5%	9.5%	12.2%	2.7%

#### 【現行計画と実績の比較】

- 現行計画と実績を比較すると、0歳児の計画に大きな乖離がある。計画では21.1%の伸びを見込んでいたが、実績では8.4%の伸びにとどまっており、-12.7%の乖離がある。
- 一方で、1・2歳児と2号認定については、計画を上回る伸びとなっている。
- 保育利用の合計としては、計画と実績との乖離は+2.7%と実績の伸びのほうが大きいものの、ほぼ見込みと近い数値となっている。

### 2 次期計画の「量の見込み」(案)

#### (1) 算出手順

- 平成30年度に実施した「ニーズ調査」の結果に基づき、国の「市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引」(平成26年1月)により算出。  
【手順1】家族類型による区分 ⇒ 【手順2】保育の必要性による区分 ⇒ 【手順3】潜在家族類型別児童数の算出 ⇒ 【手順4】量の見込みの算出
- 現行計画の「量の見込み」において、0歳児の見込みと実績に大きな乖離(+12.7%)があったことから、0歳児の量の見込みを補正する。  
補正の方法は、0歳児のいる母親について、ニーズ調査で1年以上育児休暇を取得する意思のある場合を除く。

#### (2) 算出結果

	R2		R3		R4		R5		R6		児童数に占める割合	児童数に占める割合 R6(計画) -H31(実績)
	推計児童数	量の見込み	推計児童数	量の見込み	推計児童数	量の見込み	推計児童数	量の見込み	推計児童数	量の見込み		
3号認定(0歳児)	6,745	1,793	6,816	1,826	6,673	1,770	6,554	1,755	6,480	1,721	26.6%	7.7%
3号認定(1・2歳)	14,327	8,938	13,847	8,730	13,619	8,600	13,528	8,564	13,316	8,394	62.4%	16.3%
2号認定	22,048	11,330	21,968	11,359	21,687	11,231	21,085	11,006	20,727	10,849	51.4%	8.1%
保育利用計(全市)	43,120	22,061	42,631	21,915	41,978	21,601	41,167	21,325	40,523	20,964	51.2%	10.6%

#### 【現行計画及び実績との比較】

- 現行計画と比較すると、保育利用の合計の伸びは10.6%(現行計画9.5%)とやや高くなっている。
- 現行計画期間(H26~31の5年間)の実績と比較すると、保育利用の合計の伸びは実績の12.2%よりやや低く(-1.6%)になっており、各年齢別の伸びは実績とほぼ同じ傾向となっている。
- 0歳児の伸び率については、補正を行った結果、現行計画の半分以下の7.7%(現行計画21.1%)の伸びとなっている。
- 特に補正を行った0歳児は、実績8.4%と比較しても概ね適正な見込みとなっていると考えられる。

⇒ 現行計画及び実績と比較しても、上記「量の見込み」はおおむね適正な範囲内と考えられる。